



- 運動習慣形成に向けた工夫
 - ・ 外遊びと教科、道徳、特別活動等との関連付けの工夫
 - ・ 外遊び集団の形成

＜ 家庭・地域連携、環境構成部会 ＞

- 家庭・地域との連携強化の工夫
 - ・ 保護者や地域人材のG Tとしての活用
 - ・ “新”家庭教育宣言事業の実施
- 家庭・地域の啓発の工夫
 - ・ P T A 研修会の実施
 - ・ 保護者参加型の授業の実施
 - ・ 家庭・地域への情報発信
- 掲示の工夫
 - ・ 食育コーナーの設置
 - ・ 体力向上コーナーの設置



支援のポイントとその成果

＜ 支援のポイント ＞

- 児童をしっかりと食事をする姿に導くため、給食指導を通して食への意識を継続させながら、食への興味・関心の高揚と栄養や朝食の重要性等についての理解の促進に向けて、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における指導内容と食に関する指導の内容との関連付けや活動の工夫を行う。
- 児童が主体的に体を動かす姿に導くため、健康や体力への関心を高めさせながら、外遊びの活性化に向けた環境の整備や情報提供など、外遊びの支援を工夫するとともに、外遊びと各教科や道徳、特別活動との関連付けの工夫や外遊び集団の形成など運動習慣の形成に向けた工夫を行う。
- 児童の生活習慣の改善に向けて家庭の意識を高めるために、家庭や地域の人材の活用の仕方や食と外遊びについての取り組みの内容の発信や掲示の方法を工夫する。



＜ 成 果 ＞

- 単日欠席、連日欠席をともに半減させるなど、防衛体力を高めることができた。
- 不登校児童、不登校傾向児童数を半減させることができた。
- 食に関する指導により、朝食を「いつも食べる、だいたい食べる」と答える児童を3カ年、平均93%台に保つことができた。また、「給食をいつも残す」児童の割合を3カ年とも10%未満にすることができた。
- 9時より前に就寝する児童の割合を増加させることができた。また、10時前に就寝する児童の割合が全国平均を上回り、50%台となった。
- 登校に見合った適切な時間に起床する児童の数が増えた。

